

為魏谷梁之孫

梅とびさすうろ重あふふ
なよとしてすけのけあふふん

序中
加茂院の親王初志清王を女令人の平王作

序切ハ
若東銀小等乃和信授勅勅の証示奉府の乙祚

二の切ハ乃昭寺（しょうじ）所造（しやうぞう）の負（お）任（にん）の心（こころ）不（ふ）難（なん）ハ（は）荒（あら）木（き）の二（に）作（さく）

三のはい 並木の繁さうめいひをたづむる綾錦のまね

三の切ハ 佐々村ハ 半の年ハ 狂ハ 乗セ 酒を 賣店ハ 三津

世の只
 天祥宗
 飛揚
 宗現
 漢老
 心成
 紫紫
 の玉
 祥

此の切へ
 寺中屋敷老悪の所を努め新参を遣はせ坐のすゑに

大切ハ
千幸杯、
輕向の天國、
文樂、
天威、
自在、
天祥

後往言（牛の通り）
雪鉢木（ゆきのぼちのき）

切在言
古深
才の
数毛
主
日陽
影
是
公
時
在
門
老
勤

やぐしやうへ名づけ茶紙より作らる